

# 前高特だより (第2号)

令和4年7月21日発行



暑さも日に日に増して、マスク着用で迎える3回目の夏がスタートしました。しばらく落ち着きを見せていた新型コロナウイルス感染症ですが、再び感染拡大の傾向が見られます。夏休み中も感染防止対策に気をつけながら、健康に過ごすようにしましょう。

さて、今回の内容ですが、夏休みを迎えるにあたって、全家庭に配付される「個別の指導計画」における「1学期の評価」の見方についてです。昨年度も同じ時期に説明しましたが、1年生にとっては初めてのことなので、改めて本校の個別の指導計画についてお話しします。本校は教科別の評価を基本としており、その評価の捉え方や活用について、参考となる内容をお話ししたいと思います。



《おさらいです!》

「個別の教育支援計画」は外部関係機関（教育、福祉、医療、労働等）と一緒に作成し、「切れ目のない支援」を目的に関係機関との情報共有や引き継ぎに活用されます。

「個別の指導計画」は学校が作成し、生徒の「将来像」に向けて、短期、長期の視点で個別の実態に合わせた「目標、手立て」を考え実践し、学期ごとに評価をして次学期や次年度につなげていくものです。もちろん、目標設定や手立てには、本人や保護者のねがい、福祉や医療の視点からの配慮等も反映されます。

学期末に配付される「唐松」が「個別の指導計画」の評価となっています。自立活動や教科ごとに立てられた目標に対して、「できるようになったこと」を中心に学習の記録が記載されています。

見方としては、「できた、できない」という結果だけに視点をあてるのではなく、その**過程にも注目**します。本人の興味関心や意識、強みや弱み、指示やコミュニケーションの方法、配慮や支援方法を含む環境整備等を**学校と家庭で一緒に振り返り**、今後の実践につなげていくことが重要です。つまり、学校と家庭が連携することが前提ですので、面談や家庭訪問時に担任と十分に相談等を行ってください。もちろん、面談時以外に話し合ってもらっても構いません。質問等はいつでも受け付けています。



## 「自立」に向けて!

「自立」とは、環境との相互作用（バランス）によって得られる結果です。つまり、誰も（障害の有無に関係なく）が環境に依存しており、自己の成長だけが自立を決める要因ではありません。

環境の変化だけで、自立の評価が変わることもあります。様々な角度から課題を的確に見つけ出し、生徒の実態に合った支援を一緒に考え、実践していきましょう。

